

平成30年度 水道事業会計の決算状況

日常生活において、欠かすことのできない水を家庭などへ届ける『水道』は、生活を支えるライフラインの一つです。

市は、安全で良質な水道水を安定的に供給するため、市民の皆さんからいただく水道料金を主な財源として、水道施設の整備や維持管理などを行っています。

このたび、平成30年度の収入や支払いがまとまり、決算状況については、今後、市議会が審査を受けることとなります。

今号では、水道事業会計の平成30年度決算状況をお知らせします。

※一部を除き、金額は消費税を除いた数字です。

水道事業会計の概要

水道事業は、地方公営企業法に基づき、地方自治体が経営する企業として運営しています。

事業の運営に当たっては、市民の皆さんの生活に必要な不可欠な水を安定的に供給するという本来の目的に加え、常に効率的な事業運営を図り、企業の経済性を発揮することが求められています。事業に必要な経費は、経営に伴う収入（水道料金収入）をもって充てるという独立採算制を原則に経営を行っており、会計制度は、企業の経営成績、財政状況を明らかにするため、企業会計方式を採用しています。

現在はもちろん、将来にわたって市民の皆さんに水道水を供給して

給水の状況

	平成31年 3月31日時点	平成30年 3月31日時点
給水人口	47,294人	47,870人
給水戸数	21,977戸	22,067戸
年間給水量	3,061,738m ³	3,182,762m ³
一日一人当たり平均給水量	177ℓ	182ℓ
平均配水量 (一日当たり)	12,185m ³	12,038m ³

くため、運営基盤の強化を図り、安全・安心な給水体制を確保する必要があります。

収入と支出の概要

収益的収支とは、水道水をつくり、家庭などにお届けするための費用などの収支を表したものです。

平成30年度の収入合計は、予算の8億9千867万円に対し、決算は8億8千121万円、1千746万円の減となりました。

支出合計は、予算の8億9千668万円に対し、決算は8億3千931万円、5千737万円の減となり、この結果、収支決算は、4千190万円の黒字となりました。

黒字額については、国などからの借入金今後の元金償還に備えるための減債積立金に2千96万円、配水管の更新などの施設整備に備えるため、建設改良積立金に2千94万円を積み立てる予定です。

資本的収支とは、浄水場や配水池、配水管などの整備を行うための収支を表したものです。

平成30年度の収入合計は、予算の3億5千310万円に対し、決算は3億3千487万円、1千823万円の減となりました。

また、支出合計は、予算の8億4

収益的収支表

項目	金額
収益的収入	8億8,121万円
営業収益	8億4,727万円
(うち給水収益)	7億9,994万円
営業外収益	3,394万円
特別利益	0万円
収益的支出	8億3,931万円
営業費用	7億6,277万円
営業外費用	7,644万円
特別損失	10万円
純利益	4,190万円

資本的収支表

項目	金額
資本的収入	3億3,487万円
企業債	3億2,340万円
負担金	460万円
他会計補助金	687万円
資本的支出	7億7,621万円
建設改良費	4億9,313万円
企業債償還金	2億8,308万円
不足額	4億4,134万円

千116万円に対し、決算は7億7千621万円、6千495万円の減となりました。この結果、収支決算は、4億4千134万円の不足となりました。不足額については、収益的収支の営業費用に含まれる減価償却費や資産減耗費などの内部留保資金（損益勘定留保資金）などで補てんしました。